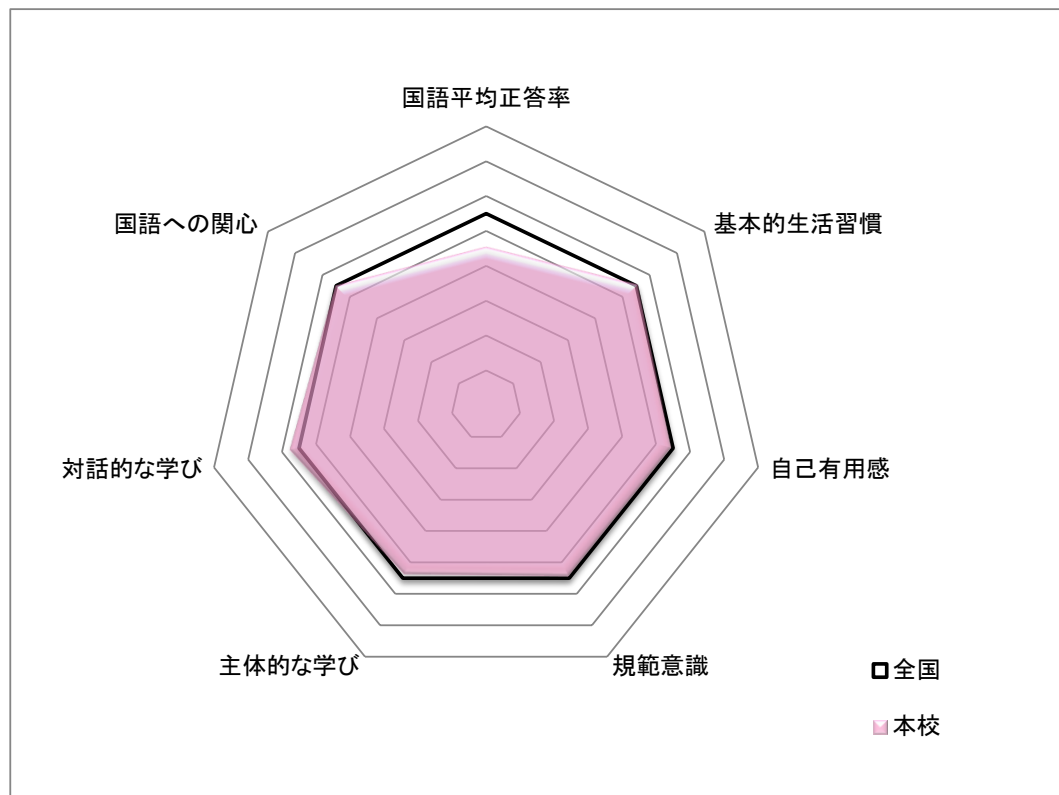


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】大杉第二小学校

各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

本校は、語彙や文法など基礎の定着不足と文章量の多い問題への弱さが課題として表れている。文章の正確な読み取りや、自分の考えを整理して説明する力を高めるためにも、基礎指導の充実が求められている。さらに、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」では、文章の要点把握や自分の考えを文章化する場面、相手の意図を踏まえてやり取りする場面でつまずきが見られる。語句理解や文構成の基礎知識を高める必要がある。読みの正確さや書く際の構成力、話す・聞く際の焦点化など基本技能を高め、情報整理や根拠をもとに考える力を育てられるよう、指導していく。

《家庭・地域への働きかけ》

国語科では、基礎的な読み書きや読解力を確実に身に付けさせることを目指す。文章の根拠を基に考えをまとめたり、条件を付けて文章を書いたりする学習に取り組めるようにする。そのためには、漢字の学習音読といった基礎を定着させる必要がある。家庭学習で取り組みやすい基本問題を活用し、「杉ニGMキャンペーン」で家庭と連携する機会を設け、学習習慣の定着を図っていく。

《現状把握》

(AB層の割合と取組内容について)

本校のAB層は30.5%で、基礎的な読みから文章理解まで幅広い課題が見られる。改善に向けて、1～6年で読みの力を段階的に積み重ねる体系的な指導を進めている。1年生では多層指導モデルMIMを活用し、特殊音節に焦点を当てながら文字や語句を正確に読む力の基盤を固めている。2・3年生では朝学習「スギニタイム」で読売新聞ワークシートに取り組み、記事の要点を捉える読みや語彙の拡充を図っている。4～6年生では「よむYOMワークシート」を使用し、裏面に自分の考えを書ける欄を設け、読み取った情報を根拠にして考えを書く学習を継続している。自分の言葉で情報を整理し、思考を言語化する力の育成を進めている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

本校では、校内研究を中心に授業力の向上を図っている。ベテラン教員による師範授業を参観し、授業構成や児童への関わり方を学ぶことで、校内の優れた実践を共有している。また、国語・算数・体育・道徳の4教科で部会を組織し、教員が自ら選んだ教科で研究授業を行い、教材研究や授業づくりを深めている。部会での協働的な学びを通して、教員同士が指導力を高め合う体制を整えている。さらに、外部講師による研修を実施し、専門的な知見を取り入れながら授業改善を進めている。校内の学びと外部の学びを結びつけ、継続して授業の質を高めている。

・基礎学力の保障

基礎学力の定着を最優先の課題とし、「よむYOMワークシート」を朝学習として週に一度実施している。書かれていることを段落ごとに分けて理解したり、感想や考えを記事の内容から拾って書いたりするなどの練習によって基礎力の向上を図っている。また、既習内容を丁寧に振り返る授業を計画し、理解の定着を確実にしている。毎日の宿題で音読をしたり、「○文字以内でまとめる」「始め、中、終わりが分かるように段落を分けてまとめる。」など、条件を決めたりして文章を書いたりすることで、一人一人が「わかる」「できる」を積み重ねられるように環境を整えている。

・学習習慣の確立

江戸川区の「study week」や生活リズムチェックと連動した取組として「杉ニGMキャンペーン」を実施し、学校と家庭が協力して学習習慣を整える体制をつくっている。学習時間の確保や生活リズムの改善を促すことで、家庭での学びが途切れず続くよう働きかけている。また、多読賞の設定や読書旬間、図書ボランティアによる読み聞かせなどを通して、読書に親しむ環境づくりを進めている。学年に応じた読書活動を充実させることで語彙力の向上や学習への意欲づけにもつながっている。学校・家庭・地域が連携し、日常的に学ぶ姿勢を育てる継続的な取組を進め、安定した学習習慣の確立を図っている。

・AB層の育成

江戸川区学力調査の分析から既習内容の定着度を把握し、AB層の育成に向けた指導を計画的に進めている。日々の授業では、各教室に配置したホワイトボードを活用し、児童が自分の考えを説明し、友達に分かりやすく伝える活動を取り入れている。説明する力の育成を通して、思考の深まりと表現の質を高めている。また、単元テストの直しや江戸川区学力調査の直し直しに取り組み、理解が深まった児童が友達に説明する学び合いを実施している。こうした活動により、A・B層の児童が主体的に学びを広げ、より高いレベルの学習へとつながられる環境を整えている。